



ニード票にもとづき、ボランティア活動の指示を受けます



被災者支援活動の報告も重要な流れの一つになります

## 災害時における様々な連携が 重要なキーワードに

地震や風水害、その他大規模災害発生時には、様々な機関・団体が連携を取り、被害を最小限にとどめるよう努めることは言うまでもありません。

特に高齢者や障害者等、災害弱者に対する支援に関しては、防災関係部局と福祉関係部局との間で、伝達支援体制の確立等の連携が重要なキーワードとなります。

去る九月三日、大規模災害発生時の初動対応の実践や、関係各機関の

相互連携及び広域応援体制の充実等を目的に、県・海老名市合同総合防災訓練が海老名市役所催事広場を中心に実施されました。

この訓練は、神縄・国府津・松田断層帯で最大震度7の地震が発生した想定のもと、県警察・消防本部や陸・海・空の各自衛隊、鉄道機関、その他県域の公共的団体、ボランティア団体等、広範な関係機関等が参加しました。

本会では、「かながわボランティアセンター」が、かながわ県民活動サポートセンター等と協働運営で災害救援ボランティア支援センターの開運営訓練に参加しました。

両センターは、災害時には、協働して県域の災害救援ボランティア支援センターとしての役割を担うため、今回の訓練では、海老名市社協ボランティアセンターとの相互連携・運営状況の検証を行うための開設運営の支援やアマチュア無線やインターネット、携帯電話等を用い、被災地からの情報受伝達と専用ホームページによる情報発信などを行いました。

また、本会「市町村社協担当」でもこの訓練にあわせ、十一の市町村

社協の参加協力を得て、「情報伝達訓練」と「被災者支援訓練」を行いました。

「情報伝達」に関しては、被災地と本部との間で連絡される被災状況や支援要請等の情報を本部（本会ボランティアセンター）が集約し、現地状況や人・物資等の支援要請を各市町村社協へ送信し、その内容を受けた市町村社協は対応可能な内容等を本部へ返信する訓練で、また、「被災者支援訓練」は現地のボランティアセンターにおいて、被災者のニーズに基づき被災現場に向き、支援活動の現状を把握すること、また現地センターにおけるボランティア登録やマッチング等、一連の流れを体験することを目的に実施しました。

参加した市町村社協職員からは、各社協間の情報（共有）伝達の重要性や訓練を体験することで、社員としての任務や責任を実感できたこと、また、平常時の業務の中で地域でのネットワークをより進めていくことが、災害時の社協の役割発揮に結びつくのではないかと、この感想がありました。

（企画調整・情報提供担当）